

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

秋の永代経法要のご案内

次のおりおつとめいたしますので、お誘いあわせの上、お参り下さいますようお願いいたします。

日時 十一月二十一日(月)

昼一時半 夜七時半

十一月二十二日(火)

昼一時半

講師 豊北町和久 照蓮寺 住職

岡村謙英 師

◇昼間仕事の方は、ぜひ夜にお参り下さい。

えいたいきょうほうよう

永代経法要とは

「いつまでも(永代)お念仏の

み教え(お経)が伝えられます

ように」と願い(仏徳讃嘆)、

またご門徒のご先祖が、志を納

めてお寺を護りお念仏を喜ば

れたことを感謝して(祖恩

報謝)お勤めする法要です。

ですから、「その心を大切に

受け継ぐ」ということは、「さ

そいあって法を聞き、如来さま

のご恩をよろこぶ」ということ

であります。



今後の行事予定

12月18日(日) 14時

12月31日(土) 11時45分

1月1日(日) 10時

1月14日~16日

仏婦報恩講

除夜の鐘撞き

元旦会

御正忌報恩講



お別れの言葉

清光仏教婦人会 会長 松野美津子

清光仏教婦人会を代表致しまして、今はみ仏のお浄土へご往生になりました、前坊守様にお別れのことばを申し上げます。

永い間大変お世話になりました。御遺族様はじめ、有縁の皆様のお歎きはひとしおの事と存じ上げます。ここにっしみてお悔やみ申し上げます。

ご法座の折には前坊守様と席を同じくしてお聴聞させて戴きましたこと、今では過ぎし思い出となりました。

お盆の頃からお姿が見えなくなりましたが、又涼しくなりました頃にはご病氣も快復されることと思ひ、お見舞いにもお伺い致しませず、悲しいお別れとなりました。

あのおだやかなお姿を見ることも、お懐かしいお声を聞くこともできなくなりました。

前坊守様は、戦前戦中戦後と激動の世の中にもかかわらず、前御住職様共々にお念仏のみ教えを身をもってお示し戴きました。本当に有り難うございました。

又、戦後の慌しい中にもかかわらず里親として三人の子どもさんを長い間あずかられ、立派に義務教育を終えさせるなど、社会福祉にもお力添えされるなど、私達のお手本でした。

前坊守様には、母共々二代に渡って大変お世話になりました。母は、前坊守様をかけがえのないご相談役として、お慕い申しておりました。今はお浄土で積もるお話をなさって下さいませ。

思い出はつきませんが、お別れの悲しさを縁として、私たちはひたすら弥陀のご本願のお聴聞を重ね、仏教婦人としてのご恩報謝の道を歩みたいと存じます。

合掌

※葬儀のときの弔辞を、掲載させていただきました。



ご会葬御礼

極楽寺前坊守 称徳院釈香雪(池信雪)

江)こと、過ぐる九月三十日午後十時二十分、行年八十九歳をもって浄土へ参らせていただきました。十月三日の葬儀には、思いがけず四百数十人の方々の会葬を賜り、またご芳志誠に有り難く、厚く御礼申し上げます。

殊に戦中・戦後の苦勞を共に味わわれた方々、当時の話を聞いておられる方々から、心あたたまる追憶のお言葉をいただきました。戦争のために住職不在の七年間が、苦難の日々であったと思ひます。

滝部安養寺から嫁して、昭和十二年から昭和四十八年まで、三十二年間極楽寺坊守として、その後前坊守として三十二年間、数々のご好誼を賜り、本当にお世話になりました。有り難うございました。

合掌

遺族一同



生かされている私

池信雪江 (野波瀬)

T 6・1・26 生

年も改まり、巳年を6回も迎えました。

花好きな私の花鉢から一本の茎がすーっと伸びて、ネリネが可憐に咲きました。毎日眺めても見あきない美しい花です。目には見えないが、鉢いっぱい広がった根のきれいに咲いてくれとの願いが実ったものでしょう。

自分だけでは何も出来ないとわかっていても、頑固に思いを変えない、おはずかしい日暮しをしています。こんな私を支え、生かして下さる目には見えない大きな力が働いていて下さいます。此の光に包まれ、お陰様と生きぬく力をいただいた幸せを味わう昨今です。

『広報みすみ』 昭和64年1月号掲載



昭和18年ころ

お慈悲の中で

池信雪江

夕日が静かに西の山に沈み今日も暮れようとしています。短い一日でしたが、思いや語らいは、空一杯広がるようにありました。それは自分に都合のよいように、自分はまちがっていないと、自我中心にはたらいっています。いかりや、腹立ちも起きました。まわりへの気遣いや、気配りも、自分が大切であるからだったかもしれません。如来さまに背を向けて、煩惱のままの生きかたより他に出来ぬ私ですが、み仏に、いつでも、どこでも、守られ願われている身であることを思うと、喜びが沸いてまいります。お慈悲にとっぷりとつかっている今日をお念仏申しつつ、すなおに生きたいと思います。お聴聞は「自分のほんとうの心に遇^あうこと」とお聞かせ頂きました。

一人でも多くの方と御座に連らなり、御聴聞することを、私の御恩報謝と思いはげみたいと思います。

(山口みのり会報 平成2年2月)



ひ孫に囲まれて (2005年8月26日)

親鸞聖人鑽仰会法会の御礼

九月十六日、十七日、結城思聞先生をお招きして、当極楽寺を会場に開催しました鑽仰会法会。お蔭様で大好評のうちに盛大に終わり、心から御礼申し上げます。



①延べ500人近くのお参りがありました。
(初日午後 約二百人/夜約百五十人/翌日約百五十人)

②夜と翌日の参詣者のおよそ半数近くの方は、続けて参られた方でした。

③夜は、若い方、壮年の方が多く参られました。

④極楽寺門徒の方が、多数お参り下さいました。



ご講師のお話や、歌と朗読に、大変感動したとの声が寄せられています。総代・世話人・仏婦役員の皆様、大変なご心配有り難うございました。合 掌



お寺の子ども会
12月4日(日)
朝8時45分から

12月8日は、お釈迦さまがさとりをひらかれた日です。お釈迦さまは、インドの方なので、今月はインド料理を食べる予定です。お楽しみに！